

公共施設などの整備

公共施設などの整備については、これまで、子どもたちが使用する教育施設の耐震化などを優先的に取り組んできたところであり、平成30年度は富岸小学校と幌別西小学校の校舎耐震改修工事と外壁等改修工事を実施するとともに、登別小学校の校舎耐震改修工事の実施設計を行うなど、平成32年度までの期間において、計画的に全ての学校の耐震化を行うこととしていきます。これらの整備計画によって、多額の費用を要している学校施設の耐震化について一定のめどがつくことから、他の公共施設整備に向けた優先順位の検討を進めたところであり、老朽の度合いや市民生活、経済活動に与える影響などを基本に検討を重ね、災害対応拠点となる市役所本庁舎の建て替えを優先順位第1位、観光の玄関口であるJR登別



▲平成29年度に耐震改修を行った登別中学校

駅のバリアフリー化の一つとしてエレベーター設置を優先順位第2位、日常生活や災害時などにおいて要となる施設である消防本部・本署の建て替えを優先順位第3位としたところです。

市役所新庁舎の基本構想（案）

市役所本庁舎の建て替えについては、地区懇談会などの場において多くの市民の方からいただいたご意見をはじめ、各団体などからのご意見を参考としたところであり、現庁舎については老朽化が進み、耐震化が困難なことから、庁内において横断的に検討を行い、庁舎を新築することとしました。その建設地については、地方自治法における庁舎の位置の考え方をふまえ、多くの市民が訪れ、公共施設として求められるアクセスの良さや利便性などから、市としては、当市のほぼ中央に位置する幌別エリアが最も適しているものと決断しました。



▲平成29年度に外壁など、最低限の改修を行った市役所本庁舎

今後につきましては、この幌別エリア内において持続可能な集約型都市構造の考えを加味しながら、平成30年3月末をめどに新庁舎建設の基本的な考え方とその視点などをまとめた基本構想（案）を

お示しし、これをもとに多くの市民の皆さんと議論を深めていきます。

JR登別駅のバリアフリー化の一つとしてのエレベーター設置に向けた取り組み

JR登別駅のエレベーター設置については、観光に訪れる方の多くが大きな旅行バッグを携行されており、また、平成32年には白老町に民族共生象徴空間が開設されるなど、当市を訪れる外国人観光客などのさらなる増加が期待されることから、JR登別駅の利便性を高めるとともに、階段を上り下りすることが困難な高齢の方や障がいのある方などにも配慮し、市民はもちろん、観光客が安全に安心して利用できるよう、長年懸案事項であったエレベーターの設置の実現に向けて、北海道旅客鉄道株式会社と引き続き協議を進めていきます。平成30年度は、エレベーター設置にあたり、必要となる地質調査などの実施について、北海道旅客鉄道株式会社と応分の負担を定め、取り組んでいきます。



▲2月の春節の時期に混み合っ
うJR登別駅で、市と登別協
国際観光コンベンションポ
会が行っているボ
サー

消防体制の充実強化

消防本部・本署の建て替えについては、まずは、平成32年度に登別支署と登別温泉支署を統合する新支署を供用開始する予定です。このような新たな地域の機能をふまえ、効率的に、また、市民の安全安心な生活を守ることができるよう消防本部・本署の適切な配置場所について検討する必要があります。また、建て替えにあたっては、平成26年7月に定めた『将来の消防力のあり方』に基づき、幌別地区と鷺別地区のそれぞれの課題解決とともに、消防体制の充実強化を図るため、両地区を一体的に検討していきます。



居住環境の整備

市営住宅については、空き住戸が増加するなど、市営住宅に対するニーズが減少していることから、都市構造を見据えた居住環境の確保を図るため、今後の市営住宅の需要の見通しや適正配置などをふまえ、目標管理戸数や事業手法などを定める『登別市営住宅等長寿命化計画』を改定するにあたっての基本的な考え方を